

○今月の「テーマ展示とアプリでStudy!」【蔵本分館】

今回のテーマ展示は、2017年12月17日(日)に開催される、徳島市立図書館・徳島大学附属図書館連携事業「健康いきいき講座Vol.3 知ることから始まる糖尿病対策 ～真髓をお伝えします～」との連動企画として、「糖尿病2017」と題してお届けします。

監修は講座の講師も務められます、糖尿病臨床・研究開発センター長、松久宗英教授にお願いし、「糖尿病」をテーマに関連書籍・雑誌を展示しています。

糖尿病は、インスリン作用の不足により慢性的な高血糖を生じ、種々の特徴的な代謝異常を伴う疾患群で、その合併症は、眼・腎臓・血管・神経など全身にくまなく現れて、患者さんの生命予後と生活の質に大きな影響を与えます。

生活習慣病の代表的なものというイメージがありますが、発症には多くの因子が関わっており、診断には注意深い洞察と最新の知見が必要です。

治療においては、個々の患者さんの病態に応じた血糖コントロール目標の見極め、合併症の評価と管理、適切な薬剤選択や併用のあり方など課題が多く、難しさもあります。治療は終生にわたるライフスタイルへの介入が必要であるため、様々な職種が参加するチーム医療で、多方面から患者さんのサポートにあたることが重要とされています。

また近年の研究では、がん、認知症、骨代謝、歯周病との関連など、糖尿病合併症をこれまでにない視点から捉えたデータが蓄積され、新しい病態が次々と明らかになってきています。

臨床の場でも、DPP-4阻害薬、SGLT2阻害薬など新規治療薬の登場や、CGM、インスリンポンプといった医療機器の利便性向上など、研究の発展に伴い、糖尿病の診断は変遷し、治療は着実に進歩しています。

徳島県は長い間、「糖尿病死亡率全国ワースト1位」が続いた時期があり、県、医師会、大学、関係機関・団体等が一体となって、継続してこの問題に取り組んでいます。依然として糖尿病有病者が多く、失明や透析に至る患者が多い県と言えます。

医療現場では、糖尿病がメインプロブレムとなる患者さんはもちろんのこと、他疾患で治療中の患者さんで、糖尿病が合併しているケースに接する機会も多いのではないのでしょうか。

糖尿病臨床のさまざまな側面について理解を深め、今後の診断と治療のあり方に展望を持つことは、将来、質の高い医療の提供につながると思います。

本展示では、診療ガイドライン、薬物療法・食事療法に関する図書、最新の研究動向を特集した雑誌などを紹介していますので、ぜひ参考になさってください。

展示期間は12月27日(水)までとなっています。皆様のご利用、お待ちしております。

展示の様子はこちら



今まで行ったテーマ展示の一覧は

→ <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/siryou/theme/> から見るができますので、ぜひチェックしてみてください！

展示資料のリスト

→ <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/news/news17/pdf/2017110701.pdf>

[メールマガジン「すだち」第154号本文へ戻る](#)

【すだち】徳島大学附属図書館報 第154号

〔発行〕国立大学法人 徳島大学附属図書館

Copyright (C) 国立大学法人 徳島大学附属図書館

本メールマガジンについて、一切の無断転載を禁止します
